

e-Learningシステムを用いた授業改善の試み（その3）[†]

—Moodleに対する学生の意識調査について—

川島 芳昭*・石川 賢*
宇都宮大学教育学部*

宇都宮大学教育学部は平成17年度の教員養成GPの採択を受け、教科等専門科目の授業改革を図ることを目的に、e-Learningシステムの一つであるMoodleを導入した。本稿では、既存のMoodleに出欠の管理と携帯電話からのアクセスができる2つの機能を追加し、それを利用した学生の意識を調査した。さらに、平成17年度と平成22年度に調査した結果と比較することで、今後のe-Learningシステムを利用した授業改善の指針を検討した。調査の結果、出欠の管理機能は利用学生に好意的に利用されていたものの、携帯電話からのアクセスについては改善が必要であることが分かった。さらに過去の調査と比較した結果、e-Learningシステムを利用するネットワークやコンピュータ環境の整備の必要性も明らかとなった。

キーワード： e-Learning, Moodle, 意識調査, 授業改善, 教育工学

1. はじめに

宇都宮大学教育学部は、平成17年度大学・大学院における教員養成推進プログラムの「授業改革と地域連携の相乗的な質的向上施策」の1つとしてe-Learningシステム(Moodle)を導入した¹⁾。それ以降、教育学部の学生、大学院生を対象とした授業や学生のポートフォリオとしての活用を行っている。さらに、教育学部の教員を対象とした研修会を年1、2回実施することで学部内の利用推進を図っている。これらの取り組みによる成果を確認するために、e-Learningを利用した授業の受講生を対象に平成17年度、平成22年度の2回にわたり利用者の実態調査を行った^{2),3)}。そして、この2回の実態調査の結果を比較することで、次のことを明らかにしてきた。

- ① 学生は、e-Learningシステムに提示された資料を効果的と感じている。特に効果的な資料と感じているのはリンク集であり、e-Learningシステムを活用した資料提示は、学生の課題解決や授業内容の伝達に有効な手段の1つである。
- ② e-Learningシステムを学生が積極的に活用するには、授業方法の改善の他に、操作方法の支援や携

帯型の情報通信端末を視野に入れたシステム改善を検討することが必要である。

③ 学生は、e-Learningシステムを活用して自分の意見を発信したり、他者と交流したりすることが有意義であると感じている。そのため、学生間コミュニケーションを高める方向で授業改善を行うことにより、学習効果の向上を図ることが期待できる。

④ e-Learningシステムを利用することは、学生にとって学習資料、課題の確認や学習履歴の振り返りができる等の意識が高い。しかし、操作や利用場所(コンピュータ設置場所)について不便を感じる学生もおり、今後の課題である。

このような成果と課題から、より利便性の高いシステムの構築が必要である。そのための方策として、1つは多くの学生が所持する携帯電話を利用したサービスの提供が有効だと言える。また、学部教員の利用率を高めるために、成績だけでなく出欠を管理できる機能を追加することも必要であると言える。

以上のことから本研究では、現在運用しているMoodleに出欠の管理と携帯電話からアクセスできる2つの機能を新たに付加することで利便性の向上を図ることとした。そして、このシステムを利用した受講者の意識を調査することで、追加した2つの機能の効果を調査することとした。さらに、平成17年度、平成22年度と同調査内容と比較することで

[†] Yoshiaki KAWASHIMA* and Ken ISHIKAWA*: Trial Study on an Improvement of Lessons by Using e-Learning System (No.3).

* Faculty of Education, Utsunomiya University.

e-Learning システムの利用者の変容について考察することとした。

2. e-Learning の機能

本学教育学部が運用・管理する e-Learning システムは、オープンソースの Moodle である。これまで Moodle が持つ基本機能である「課題の提示や、レポートの提出」、「学習コンテンツ」、「評価の記録」など 8 種類の機能を主に利用した運用を行ってきた（図 1）。これらに対して、平成 17 年度、平成 22 年度の受講者の意識調査の結果から、利便性の向上が求められていることが分かった。そこで、教育学部の e-Learning システムの利便性を高める方策として携帯電話からアクセスできるサービスの提供と受講者の出欠をコンピュータ教室以外からも行える機能を付加することとした。これら 2 つの機能を追加するために駒澤大学で開発運用している YeStudy を導入することとした^{4),5)}。YeStudy は Moodle の機能を拡張し、携帯電話からのアクセスや出欠の管理等を行う機能を有するシステムである。そこでこれまで運用してきた Moodle に YeStudy の機能である携帯電話からの閲覧を可能にする機能と受講者の出欠をコンピュータや携帯電話から管理できる機能を抽出して導入した（図 1）。特に、携帯電話を活用することで普通教室における授業でも e-Learning を活用した出欠の管理が行えるため、利便性の向上が期待できる。

3. 意識調査について

3.1 方法

表 1 に、調査した対象を示す。調査は、教育学部の学生が受講する基盤教育科目である情報教育（13 人）と情報メディア演習（21 人）の 2 つの授業（合計 34 人）で行った。いずれの授業も、学生が一人 1 台のコンピュータを利用し、資料や課題、意見交換などに e-Learning システムを活用できる環境の授業である。なお、今回の調査では、普通教室で利用している授業は除くこととした。これは、平成 22 年度の調査と同じ授業科目にすることで受講者の意識の変容を確認するためである。そのため、普通教室で利用した授業における調査は今後の課題とする。

3.2 意識調査の内容と結果

資料に、授業後に実施した意識調査の内容を示す。

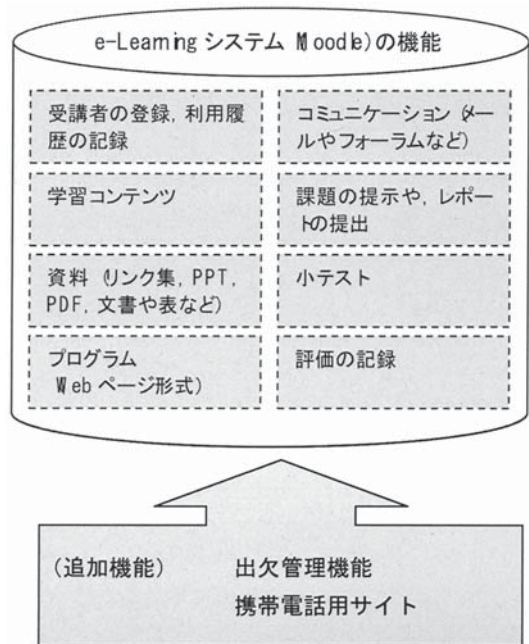


図 1 e-Learning の機能の概要

表 1 意識調査の対象

授業名	授業期間	対象	人数
情報教育	平成 26 年度後期	教員養成	13
情報メディア演習	平成 26 年度後期	非教員養成	21

※数字は人数（人）を表す

調査した項目は、平成 17 年度、平成 22 年度に実施した e-Learning システムの機能に関する質問（8 問）、e-Learning システムを活用した授業に関する質問（9 問）に、新たに出欠や携帯電話からのアクセスに関する質問（4 問）を追加した合計 21 問とした。回答度数の集計結果は、資料 1 中の【】内に示す。

本稿では、追加した 2 つの機能に関する受講者の意識と平成 17 年度、平成 22 年度に行った意識調査との比較から特徴的な事項を抽出して報告する。

4. 結果と考察

4.1 出欠管理機能

新たに追加した出欠機能の効果を調査するために「Q10：e-Learning システムを使って出席を取る方法は良かった」、「Q11：e-Learning システムを使って出席の確認が出来るのは良かった」の 2 つの質問項目を設けて調査した。回答は、「とても思う」、「思う」、「思わない」、「とても思う」、「とても思う」、「思う」を肯定的意見、「思わない」、「とても思う」を否定的意見として集計し

た。その結果を図2に示す。図2に示すように、どちらの質問においても88%以上の受講者が肯定的な意見を持っていることが分かった。この理由を回答者が記述した理由から考察すると次のようになる。Q10の回答理由として最も多かったのは「出欠を正確に取ることができる」であった。また、出欠カードなどの紙媒体や点呼などの方法では代返等の不正が起こるのに対し、このシステムではそれを防ぐことができるとの意見もあった。次に、Q11の出席の確認ができることに対する理由では、自分の出席状況について確認できることが理由として最も多かった。同時に、少数意見ではあるが授業を休んだ時の復習ややる気につながる等の意見も見られた。

以上のことから、新規に導入した出欠管理機能は受講者にとって有益な機能であることが分かった。さらに、意識調査の最後に設けた「e-Learningシステムにほしい機能、改善点」の中には、他の授業でも活用してほしいと感じる受講者が多いことも分かり、出欠管理機能が受講者に好意的に支持されていることが確認できた。しかし、受講者が全員そろってからの操作になるため遅刻者がいたときに操作が煩雑になるなどの課題もあった。今後は、円滑な操作になるように機能の見直しを行い、学部教員の周知と利用率の向上を図る必要がある。

4.2 携帯電話からのアクセス機能

携帯電話からのアクセス機能の効果を調査するために、この機能の利用率と利用経験者に対して「Q12(1): 携帯電話やスマートフォンからアクセスしたe-Learningの画面は見やすかった」、「Q12(2): 携帯電話やスマートフォンからe-Learningにアクセスしたとき、必要な情報を確認することができた」の2つの質問項目を設けて調査した。回答は、出欠機能と同様に肯定的意見と否定的意見に分けて集計した。その結果を図3と図4に示す。図3に示すように、この機能の利用率は全体の41%であった。また、利用者の意見ではQ12(1)、Q12(2)のいずれの質問においても否定的な意見が64%と高いことが分かった。この要因を回答理由から考察すると次の2つに分類することができる。1つは、画面サイズや通信速度の問題である。2つめは、書き込みや閲覧できるファイルが限定されていることである。最初の画面サイズや通信速度の問題では、俗にガラケーと呼ばれる2つ折り携帯電話とスマートフォンとで差があるのではないかと考えられる。しかし、今回の

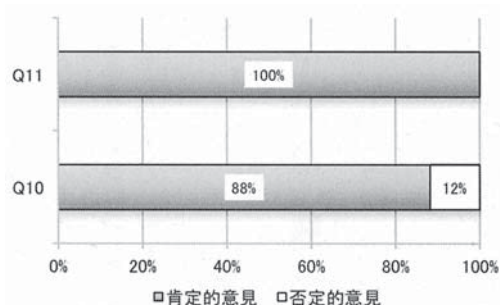


図2 出欠機能に関する意識調査の結果

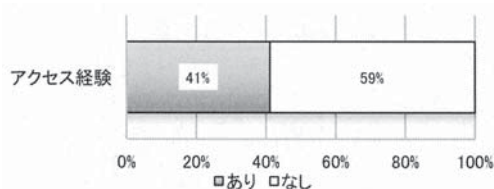


図3 携帯電話からアクセスした経験の有無

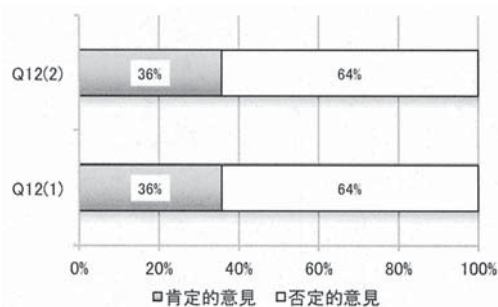


図4 携帯電話からのアクセス機能に関する意識調査の結果

調査ではそこまでの調査を行っていないため、推測による考察となるが、「つめこみすぎ」や「重いし見にくい」などの理由をあげた受講者はガラケーだったのではないかと考えられる。ガラケーはその携帯性から画面サイズが小さい、また4GやLTEなどの高速なパケット通信に未対応の機種も多いからである。一方、スマートフォンを利用している受講者からは「タップミスしやすい」の意見がありボタンサイズの検討が必要なことも分かった。

次に、書き込みや閲覧できるファイルの形式が限定されていることについては、追加した機能がMoodleの全ての機能に対応していないことが要因となる。特に閲覧できるファイル形式は現在PDFのみである。それ以外のファイル形式は携帯電話用に変換することができない。これについては、Moodleのコース作成時に指導者が配慮するなどの対策が必要である。

以上のことから、携帯電話からアクセスできる機能は、不十分であり、今後改善が必要であることが分かった。しかし、「出先で確認できた」、「手軽に検索できた」などの意見もあり、改善を進めることで利便性が向上する可能性も見られた。今後は、普通教室の授業においても試行し、多くの利用者からの意見を参考に機能改善を図る必要がある。

これらのことから新たに付加した2つの機能には改善が必要であるもののその有効性を確認することができた。

4.3 提示資料の効果

平成17年度、平成22年と平成25年度を比較することでe-Learningシステムの有用性と今後求められる改善の指針を検討した。

質問「K2-1:e-Learningシステムにより提示された資料は、課題解決や授業内容の伝達に効果的でしたか」に対し、「はい」または「いいえ」で回答させた。その結果を、図5に示す。

図5に示すように、e-Learningシステム上に提示された資料は、1名の無回答者を除くと全ての受講者が有益であると回答していた。この結果からe-Learningシステム上の資料は、試行から8年が経過しても効果的であると感じる受講者が多いことが分かった。そこで、効果的であったと感じた資料の種類について集計した。その結果を図6に示す。図6に示すように、これまではリンク集が最も効果的と感じている受講者が多かったのに対し、今回の調査結果ではプレゼンテーション資料が最も多かった(25年度:68%, 22年度:33%, 17年度:20%)。このことから、指導者が作成した資料の方がWeb上にある他者の作成した資料よりも有益だと感じる受講者が多くなったことが分かった。これは、授業を行う教員がe-Learningの利用に慣れるとともに、受講者に提供する資料の改善を図った結果だと考えられる。従って、授業改善が行われ、授業の質が向上したことが要因と言える。

4.4 学習意欲について

質問「Q1:e-Learningシステムを活用した授業を、他でもやりたい」の回答を平成17年度、平成22年度の結果と比較した結果を図7に示す。また、質問「Q2:e-Learningシステムを活用した授業により、予習・復習あるいは課題のレポートに積極的に利用することができたか」の回答を図7と同様に比較した結果を図8に示す。

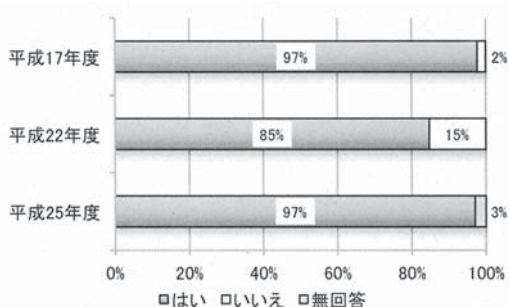


図5 「K2-1:e-Learningシステムにより提示された資料は、課題解決や授業内容の伝達に効果的でしたか」の年度比較

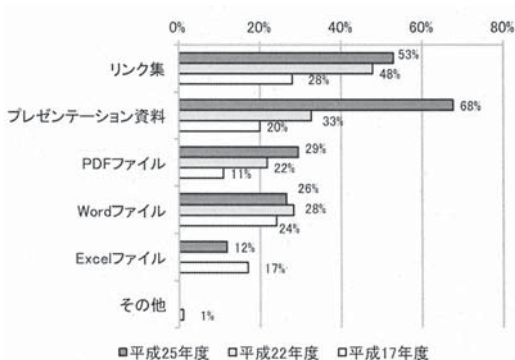


図6 「K2-2:どのような資料が、課題解決や授業内容の伝達に効果的でしたか」の年度比較

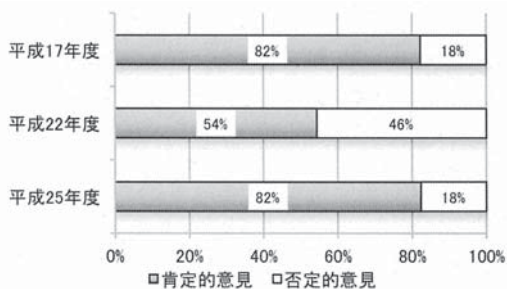


図7 「他の授業でも使いたい」の年度比較

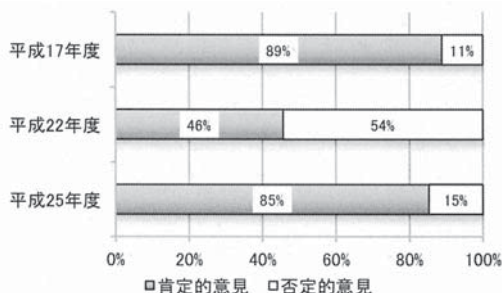


図8 「予習・復習あるいは課題のレポートに積極的に利用することができたか」の年度比較

いずれの結果も、肯定的な意見が 82%以上の高い割合となった。これは、平成 17 年度と同程度の割合である。このことを、各年度の回答理由から考察すると次のようになる。平成 17 年度は、いつでも、どこでも活用できることや e-Learning システムの利便性などの肯定的な意見が多かった。平成 22 年度は利用機会が増えたことにより、操作上の問題や自宅のネットワーク環境の問題などの否定的な意見が多かった。しかし、平成 25 年度では、「操作性の良さ」、「課題の確認のしやすさ」、「円滑な意見交換」等の操作や利便性に関する肯定的な意見が多くなった。さらに、「出席の取り方が正確」などの少数意見もあり機能を追加したことによる効果も確認できた。

以上の結果から、平成 22 年度に比べると受講生の操作技能の向上、ネットワーク環境の充実、そして受講生のコンピュータの保有率の向上などが推測できる。従って、利用者の操作技能や ICT 環境の向上により e-Learning が円滑に活用できるようになっていると言える。このことは、今後さらに進展することが予測できる情報通信社会において、e-Learning のようなオンライン教育を視野に入れた授業設計、教材開発などが重要になることを示唆しているといえる。今後は、e-Learning による学習効果の向上や利便性の向上を図る機能の検討を行っていく必要がある。

4. 5 学生間コミュニケーション

学生間のコミュニケーションに関する意識を調査するために、e-Learning システムを活用した授業が「Q5：自分の考えを授業中に出すことができた」、「Q6：他者の考えや意見が自分にとって役だった」、「Q7：他者と考えや意見の交流が図れた」の3つの質問項目への回答を求めた。それぞれの結果を図 9、図 10、図 11 に示す。その結果、学生間コミュニケーションに関する3つの質問項目に対し、年度ごとに意識が向上していることが分かった。この要因を受講者の理由から考察すると、他者の考えや意見を知ることができ、自分の改善につながると感じる受講者が多いことが分かった。一方で、他者の意見を聞けるが意見交換としての交流にはなっていないなどの少数意見も見られた。これは、対象とした授業がコンピュータ室を利用した対面型の学習であったため、Moodle の機能を利用した交流の必要性を感じる機会が少なかったためである。

これらのことから、e-Learning システムを利用し、

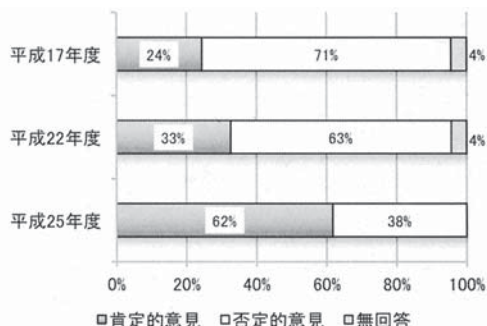


図 9 「自分の考えを授業中に出すことができた」の年度比較

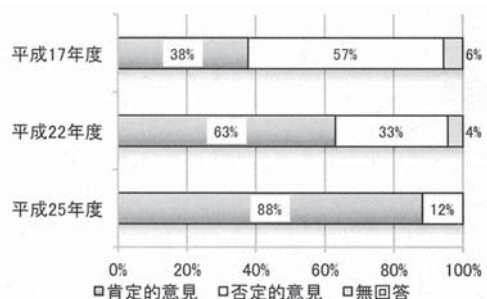


図 10 「他者の考えや意見が自分にとって役だった」の年度比較

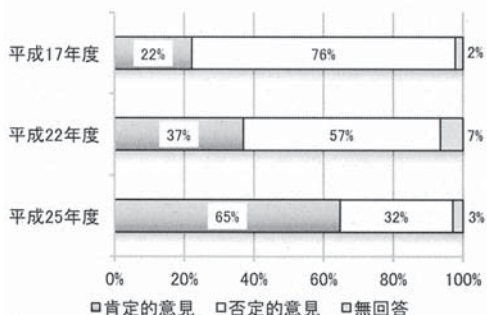


図 11 「他者と考えや意見の交流が図れた」の年度比較

オンラインの学生間コミュニケーションを行うことは、この調査対象の受講生にとって他者の意見や考えを確認し、参考にしたり自分の考えを見なおしたりするためには役に立ったことが分かった。しかし、相互に意見交換したり、協働で課題を解決したりする交流を行うには、非対面型での利用が必要と言える。これについては、調査方法を再検討し、さらなる調査が必要である。

4. おわりに

本稿では、e-Learning システムの利便性の向上を図るために Moodle に出欠の管理と携帯電話からのアクセスができる 2 つの機能を付加し、受講者の意

識の変化を調査することを目的に行った。さらに、平成17年度と平成22年度に調査した結果と平成25年度を比較することで、e-Learningシステムの改善や利用方法の在り方を検討することを目指した。

調査は、平成25年度後期の2つの授業の受講学生(34人)を対象に行った。その結果、次のことが明らかとなった。

① 出欠を管理する機能は、調査対象者の88%以上の受講生が有益であると回答している。しかし、携帯電話からのアクセスについては、利用者が少ないという実態が明らかとなった。また、画面の構成や利用できる機能について改善する必要があることが課題であることも分かった。

② 平成17年度、平成22年度の結果と平成25年度を比較した結果、効果的な資料としてプレゼンテーション資料をあげている受講者が増加していることが分かった。これは、e-Learningシステムを利用する事で授業改善が図られ、資料の修正などにより受講生に有益な情報が増えたためであると言える。このことからe-Learningシステムが授業改善、授業の質の向上に有効であると言える。

④ e-Learningシステムを利用した学習意欲について、「他の授業でも利用したいか」と「予習・復習で積極的に利用したか」の2つの観点から調査した結果、平成22年度に比べMoodleの機能の利便性に対して肯定的な意見が多いことが分かった。これは、情報通信社会の進展によりICT環境の整備や受講生の技能の向上が要因として考えられる。そのため、利用環境の整備に関する問題³⁾よりも、Moodleの機能充実が受講生の意識の向上につながる事が分かった。

⑤ e-Learningシステムを利用した学生間コミュニケーションに関する調査結果から、他者の意見や考えから自分の考えや知識を深化させるのに効果があることが分かった。しかし、相互に意見を出し合い課題解決を図るのに有効かどうかについては調査項目や方法の見直しを行っていくことが必要である。

今後は、追加した2つの機能の改善と学部教員への研修機会の増加を含め、e-Learningシステムの活用推進に努めていきたい。また、利用者からの要望に応じた機能の拡充についても検討していきたいと考えている。

参考文献

- 1) 宇都宮大学教育学部：「授業改革と地域連携の相乗的な質的向上施策」、文部科学省「資質の高い教員養成推進プログラム（教員養成GP）報告書、2007.3
- 2) 川島芳昭，石川賢：「e-Learningシステムを用いた授業改善の試み -Moodleに対する学生の意識調査について-」：宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要，第33号，pp.9-16，2010.7.
- 3) 川島芳昭，石川賢，「e-Learningシステムを用いた授業改善の試み（その2） -Moodleに対する学生の意識調査について-」，宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要，第34号，pp.1-8，2011.7.
- 4) 三浦謙一：「携帯でMoodleを使う -MoodleとMobile端末の融合-」，CAUS会誌「View Point」，第11号，pp.98-102，2011.3.
- 5) 三浦謙一：「ガラケー，スマホでMoodleを使う -MoodleとMobile端末の融合-」，CAUA会誌「View Point」，第12号，pp.52-55，2012.3.

資料

2013年 月 日

授業科目名 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____
学科 _____

e-Learning システム (modle) による授業の意識調査

下記の事項について、【 】内の選択肢から選び、記号に○をつけて下さい。
また、利用目的を選択して下さい。(複数選択可)

○活用した主な機能について

- K1. e-Learning システムを利用した場所はどこですか。
 ①授業の教室 [17] ②校内の研究室 [3] ③総合情報処理センター [15] ④図書館 [13] ⑤自宅 [18]
 ⑥その他 (具体的に: _____) [10]
- K2.1. e-Learning システムにより提示された資料は、課題解決や授業内容の伝達に効果的でしたか。
 【 7. はい [33] 8. いいえ [0] 】
- K2.2. どのような資料が、課題解決や授業内容の伝達に効果的でしたか。
 ① リンク集 [18] ②プレゼンテーション資料 [23] ③PDFファイル [10] ④Word 文書ファイル [9]
 ⑤ Excel 文書ファイル [4] その他 (具体的に: _____)
- K3. 「フォーラム」(電子掲示板) を利用しましたか。
 【 7. はい [10] 8. いいえ [1] 】

- どのようが機能を利用しましたか。
 ① 自分の意見の書き込み [26] ②他者の意見への書き込み [17] ③意見の閲覧 [21] ④意見の評価 [5]
 ⑤課題の投稿 [25]
- ⑥その他 [2] (具体的に: 班で使う資料のやり取り。グループの共有。) [0]
- K4. 「課題」を利用しましたか。 【 7. はい [25] 8. いいえ [8] 】
- K5. 課題やレポートを書くために、フォーラムを利用しましたか。 【 7. はい [18] 8. いいえ [12] 】
 その理由は何ですか。

- ① 他者の意見を知りたいため [9] ②他者の進捗状況を確認するため [8] ③他者との意見交換のため [8]
- ④ 他者のレポートを参照するため [10] ⑤その他 (具体的に: _____) [0]
- K6. 「コメント」を利用しましたか。 【 7. はい [0] 8. いいえ [33] 】
- K7. チャットを利用しましたか。 【 7. はい [0] 8. いいえ [33] 】
- K8. 他の受講者とメールで情報交換をしましたか。(yahoo メール) 【 7. はい [13] 8. いいえ [21] 】
- K9. 上記の3から7以外で利用した機能があれば書いてください。(_____)
 ○全体について
 黒板や配布資料、OHP等を用いた授業と比較して、下記の問いに答えて下さい。
 回答は、【 】内の選択肢から選び、記号に○をつけて下さい。また、その理由を記述して下さい。
 【 7. とてもそう思う [7] 8. 思う [21] 9. 思わない [5] エ. とてもそう思わない [1] 】

(理由) 使い勝手が良い [4]、課題の確認のしやすさ [6]、円滑な意見交換 [4]、データを共有できる [1]、ネット環境があればアクセスできる [1]、他の受講者の課題が参考になった [1]、データの重複が避けられた [1]、資料の添削に合わせた [1]、課題出や書き込みにより便利である [1]、ダウンロードの時間のタイムラグ考えられない [1]、パソコンから離れられない [1]、情報のもれを少なくできる [1]、確認しやすい [2]、情報機器の扱いに慣れる [1]、出席の取り方が正確 [1]、自宅からも見られる [1]、紙の資料より管理しやすい [1]、印刷の手間がかからない [2]、授業をアクティブにできる [1]、効率的 [1]、時間が分かる [1]、面倒 [1]、苦痛 [1]

02. e-Learning システムを活用した授業により、予習・復習あるいは課題のレポート作成に積極的にご利用することができた。

【 7. とてもそう思う [6] 8. 思う [23] 9. 思わない [5] エ. とてもそう思わない [0] 】

(理由) 提出するのに役立つ [6]、資料を持ち歩きやすく [1]、授業内容をチャットできる [4]、どこでもアクセス可能 [1]、ネットと併用しやすい [1]、フォーラム利用により課題の相談作成が可 [1]、いつでも提出できる [1]、他の授業で毎週 400 字のレポートを提出 [1]、情報を探しやすく時間短縮になる [1]、紹介されたリンク集を活用できた [1]、リンク集がレポート作成に役立った [1]、他の受講者の提出状況を見てやる気になった [2]、PC 使用時間が短わっていい [1]、時刻が残る [1]、紙媒体に記述する方が楽 [1]、特に何も感じない [1]

03. e-Learning システムを活用した授業により、学習が効果的にできた。

【 7. とてもそう思う [7] 8. 思う [22] 9. 思わない [5] エ. とてもそう思わない [0] 】

(理由) フォーラムに投稿することで効率が良い [1]、意見交換、共有ができる [1]、速読になった [1]、紙学習より楽 [1]、PC 作業、訓練にもなる [1]、何度でも確認できる [1]、書き取りしなくなった [1]、PC から離れられない [1]、グループ課題やりやすかった [1]、書き込みが見られる [1]、自分の発表についての批評が見られる [1]、資料が見やすくなる [1]、予習復習ができる [2]、便利 [1]、いつでも情報が見られる [1]、手元の画面で確認できる [1]、レポート提出が自宅からできる [1]、特に活用しなくてもいい [1]

04. e-Learning システムを活用した授業により、情報活用技術の向上を認めた。

【 7. とてもそう思う [7] 8. 思う [23] 9. 思わない [4] エ. とてもそう思わない [0] 】

(理由) PC が必須だった [6]、キーワードが早く打てるようになった [1]、他者の意見を自分の発表の改善に活かされた [1]、多くの情報を探し、学んだ [2]、メディアを有効活用できた [1]、情報機器の効果的な利用法に身についた [1]、e-Learning で授業できた [1]、自らトピックを追及し、意見を出し合った [1]、パワーポイントを使用する機会があった [1]、会社で役立つと思う [1]、技能向上した [1]、電子黒板の使い方が参考になった [1]、e-Learning をあまり使わない [1]、知っている機能が使わなかった [1]、技能向上していない [1]

05. e-Learning システムを活用した授業により、自分の考えを授業中に出すことができた。

【 7. とてもそう思う [3] 8. 思う [18] 9. 思わない [12] エ. とてもそう思わない [1] 】

(理由) 書き込みができる [6]、意見交換しやす [5]、プレゼンに利用した [1]、周りの考えが頭に入りすぎて、自分の考えをまとめられなくなった [1]、課題の提出場所としての活用がほとんどなかった [1]、レポートに書いた事を発表する機会はない [1]、影響はない [1]、意見を出す機会がなかった [4]、意見を発表できた [2]、ネットだから、こー言えば、書ける [1]、遠慮してしまう [1]、自己の発表に対する反省ができる [1]、必要性を感じない [1]、フォーラムのコメントという形の方が他の意見も読めてよかった [1]

06. e-Learning システムを活用した授業により、他者の考えや意見が自分にとって役立った。

【 7. とてもそう思う [11] 8. 思う [19] 9. 思わない [3] エ. とてもそう思わない [1] 】

(理由) 他の意見から自分の改善点、反省点が見えた [6]、閲覧することで参考になる [6]、他との比較ができる [2]、文字として一瞥に読める点が良い [1]、e-Learning を見ていない人が多い [1]、課題が可能な形で参考になった [1]、意見しにくいことも減っていい [1]、違う視点からの意見、考えが分かる [1]、授業の評価をしても良かった [1]、周りと比べられた [1]、他学科からの意見が聞けた [1]、見直しができる [1]、使う機会がなかった [1]、当たりさわりのない事しか書かない [1]、必要性を感じない [1]

07. e-Learning システムを活用した授業により、他者と考えや意見の交流が図れた。

【ア. とてもそう思う [7] イ. 思う [15] ウ. 思わない [10] エ. とてもそう思わない [1]】

(理由) 楽に交流できた [2]、他者の考えを知れた [2]、自分で分らない改善点を知れた [1]、資料を同時にあげられる [1]、意見をいつまでも見られる [1]、意見は聞きあったが交流したとは思えない [1]、交流より一方的な意見の出し合い [1]、メールでも問題ない [1]、アクセスが面倒 [1]、他者の意見をたくさん聞けた [5]、評価し合える [2]、やり取りしやすい [1]、参考になった [1]、掲示板やチャットでいいと思う [1]

08. e-Learning システムを活用した授業は分かりやすい。

【ア. とてもそう思う [7] イ. 思う [25] ウ. 思わない [1] エ. とてもそう思わない [0]】

(理由) 画面が見やすい [8]、分かりやすい [7]、確認するのに役立つ [4]、閲覧しながら活用できる [1]、大勢と同じ伝達をするのは便利 [1]、情報メディア演習は分かりやすい [1]、情報が残る [1]、見返せる [2]、授業のもれが少ない [1]、見やすい [4]、効率的に進んでいくので分かりやすい [2]

09. e-Learning システムを活用した授業は、授業の関連情報を参照しやすかった。

【ア. とてもそう思う [12] イ. 思う [19] ウ. 思わない [3] エ. とてもそう思わない [0]】

(理由) リンクして参照することができた [6]、知識の深まりにつながった [1]、リンクを押せばいいだけの [1]、分りやすい [1]、画面の切り替えができてすぐ戻れる [1]、昨年度のプレゼン資料など見ることができた [1]、素早く資料なども見ることができた [1]、進捗度が分かりやすい [1]、リンク集、参考文庫等が役にたった [8]、アクセスすればみられる [1]、ハイパーリンクを使えた [1]、とても使いやすかった [1]、大きな利益 [1]、調べやすかった [1]、全ての授業に書き込みしていいので分らない授業もあった [1]

010. e-Learning システムを使った出席を取る方法は良かった。

【ア. とてもそう思う [16] イ. 思う [14] ウ. 思わない [4] エ. とてもそう思わない [0]】

(理由) 出欠を正確にすることができた [1]、時間短縮できる [6]、新鮮である [2]、パソコン使用の回にもパソコンを下げなければならぬのは少し無駄である [1]、不正ができない [4]、確認だから [2]、出欠率を確認できる [2]、席に着くのが人によってバラバラ [1]、30秒おきにパスワードを変えるのはやめた方がいい [1]

011. e-Learning システムを使って出席の確認ができるのは良かった。

【ア. とてもそう思う [15] イ. 思う [19] ウ. 思わない [0] エ. とてもそう思わない [0]】

(理由) 出席回数の把握 [3]、生徒としても楽である [1]、やむを得ない理由で休んだ時不安にならない [1]、出欠率を確認できる [6]、不正ができない [2]、授業アンケートに役立つ [1]、休んだ部分を友人に聞くことができる [1]、100%やる気につながった [1]

012. 携帯電話やスマートフォンから e-Learning にアクセスしたことはある人に聞きます。

(1) 携帯電話やスマートフォンからアクセスした e-Learning の画面は見やすかった。

【ア. とてもそう思う [1] イ. 思う [4] ウ. 思わない [5] エ. とてもそう思わない [4]】

(理由) PC 上と全く見え方が違う [1]、見やすかった [1]、アクセスできない (総合ホームののみ) [1]、選択ボタンが小さい [1]、スマホもわかりやすいが、いつも使っているパソコンサイトのタブ接続できていい [1]、プロが小さいアクセスできないこともあった [1]、PC とほぼかわらなかつた [1]、見づらい [8]、つめこみすぎ [1]、重く見にくく [1]、データが重く動きが重い [1]、タップミスしやすかった [1]、入るまでに時間がかかった [1]

(2) 携帯電話やスマートフォンから e-Learning にアクセスしたとき、必要な情報を確認することができた。

【ア. とてもそう思う [1] イ. 思う [4] ウ. 思わない [6] エ. とてもそう思わない [3]】

(理由) 出先で確認できた [1]、休んだ授業の内容を確認できた [1]、フォーラム投稿など見えなかつた [1]、見づらかつた [1]、見やすかつた [1]、スマホから PDF 以外のファイル閲覧ができない [2]、フォーラムに書き込みなかつた [1]、見づらかつた [1]、パソコン不用で手軽に検索できた [1]、見たいものが Word だったりしてあまり役に立たなかつた [1]

e-Learning システムに欲しい機能、改善点

携帯端末におけるアプリ化 [1]、今後は、他の授業の出席も e-Learning システムを使ってくれると助かります [1]、全县の先生のオフラインアワードレスの一覧シラバスに意外にのってなくて困るから [1]、編集が分かりにくいファイルアップロードする画面ももっとシンプルにしてもいい [1]、e-Learning システムでどれを指すんでしよう、あの色々できるページですよね活用された教材などと混同した意見があつたかもしませんが見逃して下さい [1]、出欠のシステムをもっと活用してほしいと感じ [1]、ネットに詳しいわけではないので、忘れた操作機能をお願い出欠の時間があつた [1]、スマホなどからも PC と同様に見られるようにしてほしい [1]、基盤からログインするとき、道のりが長い [1]、旧 e-Learning が一度開くのは必要ないと思う [1]、使い方がイデ、便利帳などあるともっと活用できそうな気がする [1]、書き込みの際、文字の改行、文字サイズ変更などがしづらい [1]、メール設定について説明などされた記憶がないので、説明会とかあつたらよかつた [1]、スマートフォン等からのファイル閲覧機能 [1]、トピックアウトライン、フォーラムなど一行あけて改行する機能が欲しい [1]、Word のように文中に写真や挿入できるような [1]、フォーラムに iPhone から書き込みする機能 iPhone から編集できる機能 [1]、ログインが苦手、めんどうな点 [1]